



2021年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月6日

上場会社名 シルバーエッグ・テクノロジー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3961 URL <https://www.silveregg.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) トーマス・アクイナス・フォーリー
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部 副部長 (氏名) 樋之内 幸正 TEL 06 (6386) 1931
 四半期報告書提出予定日 2021年8月6日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第2四半期の連結業績（2021年1月1日～2021年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第2四半期	611	△0.8	139	△1.2	136	△3.1	98	68.9
2020年12月期第2四半期	616	30.5	141	413.3	140	409.1	58	300.2

(注) 包括利益 2021年12月期第2四半期 103百万円 (77.7%) 2020年12月期第2四半期 58百万円 (822.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第2四半期	33.34	33.27
2020年12月期第2四半期	19.87	19.82

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第2四半期	1,261	1,106	87.7
2020年12月期	1,236	1,002	81.1

(参考) 自己資本 2021年12月期第2四半期 1,106百万円 2020年12月期 1,002百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年12月期	-	0.00	-	-	-
2021年12月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年12月期の連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,236	0.3	144	△34.4	144	△34.0	127	27.7	43.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年12月期2Q	2,996,942株	2020年12月期	2,996,942株
② 期末自己株式数	2021年12月期2Q	42株	2020年12月期	42株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年12月期2Q	2,996,900株	2020年12月期2Q	2,948,747株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明及び決算説明会の内容の入手方法について）

当社は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来のアナリスト向けの説明会開催に替えて、2021年8月中旬にアナリスト向けに当該説明用のスライド付き音声配信をする予定です。決算補足説明資料はTDnetで開示予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(追加情報)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結損益計算書関係)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(重大な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が開始される一方で、緊急事態宣言の延長等により経済活動が制限されている状況が続き、依然として先行きが不透明な状況のまま推移しております。

一方で、当社の事業が関連するBtoC-EC（消費者向け電子商取引）市場規模は、2020年は19.3兆円（前年比0.4%減）とほぼ横ばいになりましたが、物販系分野においては12.2兆円（前年比21.7%増）と大幅に拡大し、また同分野におけるEC化率は8.1%（前年比1.3ポイント増）になりました（出典：経済産業省、令和2年度 産業経済研究委託事業（電子商取引に関する市場調査）報告書）。

また、2021年5月度のネットショッピングを利用した世帯（2人以上の世帯）の割合は52.1%（前年比1.6ポイント増）と増加しており、引き続き、電子商取引のさらなる拡大が見込まれております（出典：総務省、家計消費状況調査 ネットショッピングの状況について（二人以上の世帯）－2021年（令和3年）5月分結果－）。

このような状況の中、当社は「AI（人工知能）クラウド型サービスで、あらゆるタッチポイントにおけるリアルタイム・パーソナライゼーションの実現」をミッションに掲げ、ECサイト運営企業、ウェブサービス企業向けに、AIを用いたマーケティング支援ツールである「リアルタイム・レコメンド・サービス」を提供してまいりました。

営業活動につきましては、主力商品である「アイジェント・レコメンダー」及び「レコガゾウ」では、特に既存顧客に対する売上が引き続き増加した影響により、営業収益が1,532千円増加（前年同期比0.2%増）しております。この売上は、顧客が属している業界の市場環境に影響を受けており、インテリア業界（同24.9%増）、総合通販業界（同22.3%増）及びデジタルコンテンツやエンターテインメント業界（同22.3%増）と好調を維持しております。一方、前期において新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言による巣ごもり需要で大きく売上が伸びていた業界であるアパレル業界及び人材業界については、落ちつきを見せていることから、前期比較で減少しております。

また、レコメンド広告サービス「ホットビュー」については、国際的な規制強化の影響等により営業活動を削減しており、営業収益が6,685千円減少（同60.7%減）いたしました。

なお、当期においては、パートナー連携の強化を図り、これまで連携できていなかったECプラットフォームとの連携が可能となりました。今後、公式アプリ化を進め、新規受注につなげていく予定です。さらに、2021年6月30日に新製品のAIパーソナライゼーション・プラットフォームである「A i g e n t X」をローンチいたしました。第3四半期連結会計期間より販売を開始していきます。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益につきましては611,425千円（前年同期比0.8%減）となりました。営業費用は、前年同期と比較すると人員数が増加していることから給料手当は増加しているものの、当初計画の採用計画は未達となり、第3四半期連結会計期間以降に発生する見込みになっております。その他の営業費用としては、通信費の減額交渉を行い発生額が削減でき、また外部コンサルティング業者への支払が減少しております。これらの影響により、営業利益は139,844千円（同1.2%減）、経常利益は136,261千円（同3.1%減）となりました。なお、前期には投資有価証券の減損損失22,913千円を計上していましたが、当期は特別利益及び特別損失は計上していないため、親会社株主に帰属する四半期純利益としては98,929千円（同68.9%増）となりました。

なお、当社グループは、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ25,331千円増加し、1,261,727千円となりました。主な内訳は、売掛金の回収による減少(22,203千円)及び繰延税金資産の取崩による投資その他の資産のその他の減少(6,114千円)となる一方で、キャッシュの獲得による現金及び預金の増加(25,547千円)及び「Agent X」等の資産化による無形固定資産の増加(20,549千円)によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ77,890千円減少し、155,684千円となりました。主な内訳は、未払法人税等の支払による減少(55,103千円)及び賞与引当金の支払による減少(21,346千円)によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ103,221千円増加し、1,106,042千円となりました。主な内訳は、親会社株主に帰属する四半期純利益98,929千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ25,547千円増加し、912,073千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、得られた資金は、43,214千円(前年同期に得られた資金は92,726千円)となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益の計上額136,261千円、売上債権の減少額22,126千円があった一方で、未払消費税等の減少額22,063千円、賞与引当金の減少額21,346千円及び法人税等の支払額85,411千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、支出した資金は、21,905千円(前年同期に支出した資金は18,065千円)となりました。これは、無形固定資産の取得による支出21,905千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増減はありません(前年同期に得られた資金は1,312千円)。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月12日に公表いたしました連結業績予想を変更し、2021年8月5日付「2021年12月期第2四半期及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」で公表しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	886,526	912,073
売掛金	209,014	186,811
その他	23,753	33,012
貸倒引当金	△286	△257
流動資産合計	1,119,008	1,131,639
固定資産		
有形固定資産	27,408	25,282
無形固定資産	53,145	73,694
投資その他の資産		
その他	37,697	31,582
貸倒引当金	△863	△472
投資その他の資産合計	36,833	31,110
固定資産合計	117,387	130,087
資産合計	1,236,395	1,261,727
負債の部		
流動負債		
未払金	60,455	48,993
未払法人税等	91,777	36,673
賞与引当金	21,346	—
役員賞与引当金	3,984	—
その他	56,012	70,017
流動負債合計	233,574	155,684
負債合計	233,574	155,684
純資産の部		
株主資本		
資本金	285,272	285,272
資本剰余金	270,035	270,035
利益剰余金	457,218	556,148
自己株式	△134	△134
株主資本合計	1,012,392	1,111,322
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,571	△5,279
その他の包括利益累計額合計	△9,571	△5,279
純資産合計	1,002,820	1,106,042
負債純資産合計	1,236,395	1,261,727

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業収益	616,578	611,425
営業費用	474,968	471,580
営業利益	141,610	139,844
営業外収益		
受取利息	3	4
貸倒引当金戻入額	—	390
営業外収益合計	3	395
営業外費用		
為替差損	176	3,978
貸倒引当金繰入額	860	—
その他	—	0
営業外費用合計	1,037	3,978
経常利益	140,576	136,261
特別損失		
投資有価証券評価損	22,913	—
特別損失合計	22,913	—
税金等調整前四半期純利益	117,662	136,261
法人税、住民税及び事業税	62,332	31,682
法人税等調整額	△3,259	5,649
法人税等合計	59,072	37,331
四半期純利益	58,590	98,929
親会社株主に帰属する四半期純利益	58,590	98,929

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	58,590	98,929
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△516	4,292
その他の包括利益合計	△516	4,292
四半期包括利益	58,073	103,221
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	58,073	103,221
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	117,662	136,261
減価償却費	2,946	3,481
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	868	△419
賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△21,346
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	—	△3,984
受取利息	△3	△4
投資有価証券評価損益 (△は益)	22,913	—
株式報酬費用	4,687	4,687
売上債権の増減額 (△は増加)	△23,546	22,126
前払費用の増減額 (△は増加)	△14,389	△14,808
未払金の増減額 (△は減少)	3,874	△11,465
未払費用の増減額 (△は減少)	△12,377	△5,129
未払消費税等の増減額 (△は減少)	9,832	△22,063
その他	5,222	41,284
小計	117,691	128,621
利息及び配当金の受取額	4,467	4
法人税等の支払額	△29,432	△85,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	92,726	43,214
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△18,065	△21,905
投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,065	△21,905
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	1,312	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,312	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△401	4,239
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	75,571	25,547
現金及び現金同等物の期首残高	726,408	886,526
現金及び現金同等物の四半期末残高	801,980	912,073

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症については収束時期を正確に見通すことは現時点において困難ではありますが、当第2四半期連結会計期間末において重要な影響は生じておりません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

投資有価証券評価損

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年6月30日)

当社の連結子会社Silver Egg Technology Asia Limitedが所有しておりました投資有価証券のZeroth SPC社(以下、Zeroth社)が運営するAI特化スタートアップアクセラレーターファンドへの運用開始分について、当社(親会社)へ2020年4月に移管を行い、ファンドの運営管理並びに監視体制の強化を図ってまいりましたが、新型コロナウイルスの更なる感染症拡大の影響に加え、Zeroth社の運営責任者ならびにファンドマネージャーが不在となる等の運営環境及び管理体制が急変いたしました。これにより、当社として投資の価値を適切に把握することが、困難な状況に至りましたため、保守的な観点から減損損失処理を行うことが妥当と判断し、特別損失に22,913千円の投資有価証券評価損を計上しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重大な後発事象)

当社及び当社子会社は、保有する投資有価証券を売却いたしました。

1. 投資有価証券売却の理由

当社及び当社子会社保有の投資有価証券について、過年度に減損損失を計上しておりましたことから、資産の効率化及び財務体質の強化を図るため、当該投資有価証券を売却いたしました。

2. 投資有価証券売却の内容

(1) 売却銘柄	非上場有価証券1銘柄
(2) 売却日	2021年7月15日
(3) 投資有価証券売却益	53,191千円

3. 損益に与える影響

上記投資有価証券売却益について、2021年12月期第3四半期連結会計期間において特別利益として計上する予定であります。